

連載

宇宙を観じる生活を！ (27)

～黄華堂ブログ～

黄華堂（代表：有本淳一、ブログ編集長：小林 弘）

1. はじめに

黄華堂は「子どもたちに本物の星空を！」をモットーに、関西を中心に観望会開催などの活動をしているボランティアグループです。観望会以外にも、1人でも多くの人に星を見てもらうきっかけになるように、黄華堂ブログ[1]として、星空案内や天文に関する情報をご紹介します。また、ブログの更新はTwitter [2]・Facebook [3]で通知しています。

2. 黄華堂ブログの内容

それまではメールマガジンとして発行していたものを2014年4月から黄華堂ブログとしてひと月に数回の頻度で更新しています。今回はその中から「世界の星の言い伝え」、「突撃！隣の天文台」、「京大病院活動報告」の3つの記事をご紹介します。

2.1 世界の星の言い伝え

今回は有名な星のひとつシリウスについて紹介しましょう。シリウスはおおいぬ座の星でとても明るく、地球から見ると太陽を除いて1番明るく見える恒星ということで昔から様々な目印として使われていました。

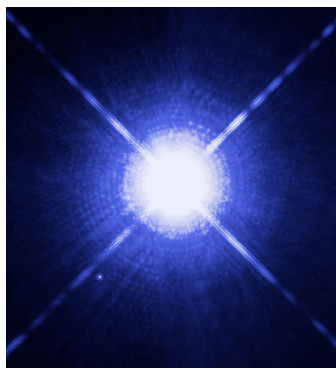


図1 シリウス (NASA 提供)

エジプトでシリウスはソプデト(ソティス)という名の農耕の神の星とされていました。エジプトにはとても大きな川、ナイル川が流れています。この川は年に一回氾濫を起こします。この氾濫は人に被害をもたらすのみではありません。この氾濫によってあふれ出た水を農業に使うができたのです。そんなわけでナイル川の氾濫の時期は農耕を行う人にとって、とても知りたい情報でした。偶然にもナイル川の氾濫の時期というのは、シリウスが日の出前に東の空に昇ってくる時期に重なりました。そういうわけでエジプトの人はこの星を農耕の神の星としました。

アメリカではシリウスを“dog star”と言い、夏の暑い時期を“dog days”と言うそうです。シリウスは別名カニクラといい、これはラテン名で「小さな犬」という意味を表しており、ここからつけられた名前だと考えられています。また、先にも述べたようにシリウスは地球からの見かけ上、太陽に次いで2番目に明るい恒星です。夏の半ばになると、シリウスが日の出直前に見えその後に太陽が昇ってきます。つまり、シリウスの熱と太陽の熱が合わさると地球はとても暑くなってしまおうという考え方から、夏の暑い時期を dog days と言うようになりました。

上のような2つの考え方は違う時代、違う場所で生まれたものです。しかし、両方ともシリウスが太陽と共に昇ることを見て生まれた考えです。自分たちの身の回りの環境によって、星の見方は大きく変わってくることがわかるかと思います。逆を言うと星の言い伝えを正しく理解することで、星に対する考え方が生まれた時代の生活環境が読み解けるの

かもしれません。そういった意味でも様々な言い伝えを理解するのは大切なことかもしれませんね。

(貴村:黄華堂ブログ 2015年8月27日更新)

2.2 突撃！隣の天文台

今回は、「子どもと楽しめるプラネタリウム」をテーマに、三重県松阪市にある施設「みえこどもの城」を紹介したいと思います。

<みえこどもの城について>

三重県の中央部、松阪市にある「みえこどもの城」は東名阪自動車道「松阪 IC」から車で 15 分の位置にあります。この施設の特徴は、親子で楽しめる施設であること、従来の科学館とは違い、企画展示がなくイベント運営・参加体験型の施設であることです。施設の最上階には直径 22m の傾斜式「ドームシアター」があります。一昨年までは、「プラネタリウム解説コンクール」も行われていました。



図 2 みえこどもの城

<0歳から？子どもが楽しめちゃう施設>

プラネタリウムと言えば「静かな雰囲気ではゆったり星々を眺める・・・(うとうと寝ながら?)」というイメージでしょうか。小さなお子様をお連れの方々にプラネタリウムをお勧めしても、「そんな施設に小さい子どもなんて連れていけないわけがない」と言われそうですね。しかし、みえこどもの城は大丈夫です。「星空コンサート」、「0歳から楽しめるプラネタリウムイベント」など、様々な親子向けの特別企画があります。絵本や音楽とともに、

星空を楽しめるようになっています。プラネタリウムの他には、子どもでもボルダリングを楽しむことができる「クライミングコーナー」や、科学実験が体験できる「サイエンスルーム」など、小学校高学年までの子どもなら 1 日楽しめる場所となっています。



図 3 クライミングコーナー

<三重県のあんな施設やこんな施設>

みえこどもの城の魅力は、伝えきれないほどまだまだたくさんあります。私自身小さい頃から何度も親に連れてってもらった施設で、大学生の時は運営ボランティア、教員になった今では子どもたちを連れてプラネタリウムの学習投影と、ずっとお世話になっています。

この「みえこどもの城」だけでなく、三重県には他にもたくさんのプラネタリウムがあります。しかもここ数年はリニューアルや新しい施設の登場が続いています。それらを少し紹介します。

①四日市市立博物館（三重県四日市市）

四日市市立博物館の「GINGA PORT 401」は、今年 3 月にリニューアルオープンしたばかりで、ドーム径 18.5m、座席数 144 席、五藤光学研究所が製作した投映機は、なんと世界最多となるおよそ 1 億 4,000 万個の星を映し出します。高輝度 LED 光源が採用され、

星の固有色までも科学的に正しく再現します。

②岡三証券 (三重県津市)

津市の「岡三証券」にある神楽洞夢は、一昨年 10 月にオープンし、ドーム径 14.4m、座席数 80 席、BARCO 社製 4k プロジェクター 5 台を使用した、世界最高水準の映像を映し出す最新デジタルドームシアターです。小学生の学習投影が主で、一般公開は木曜日の 16 時からのみ、という社会人泣かせのプラネタリウムでもあります。

来年 5 月には「伊勢志摩サミット」が行われるなど、近年の三重県は大盛り上がり。ぜひ、三重県に観光へお越しの際は、お立ち寄りください。

(前田:黄華堂ブログ 2015 年 10 月 16 日更新)

2.3 京都大学病院活動報告

私たちは京都大学病院小児科に入院している子どもたちのためのボランティアグループ『にこにこトマト』の活動の一環として、星空に関するイベントを春・夏・秋・冬の年 4 回行っています。特に夏は日が長いので病院内のフリースペースでプラネタリウムを行っており、今回は 7 月 8 日に行ったプラネタリウムの活動を報告します。

当日はまず初めに 16 時半からプレイルームで星空のお話をします。7 月 8 日の前日は七夕ということで、七夕伝説のお話を皆にお話しました。その後、天文ウルトラクイズをして、夜のプラネタリウムの案内をしたら一旦解散です。子どもたちが楽しんでくれるように、プラネタリウムの準備です。ドームを扇風機で膨らませて、中に投影機を乗せたら準備完了です。開始の 19 時になるとたくさん子どもたちが来てくれました。

子どもたちにドームに入ってもらいプラネタリウムスタートです。プラネタリウムは 15 分公演を 3 回行いました。次のプラネタリウ

ムまで待つ間は宇宙シミュレーションソフト Mitaka を使って宇宙旅行に出かけたり、宇宙のパズルで楽しんでもらったりしました。

たくさん子どもたちが来てくれて、たくさん笑顔に出会えて、本当に最高のプラネタリウムになりました。今回は時間の関係で望遠鏡を使った観望会はできませんでしたが、秋には観望会も行います。



図 4 Mitaka 投影の様子

(小野:黄華堂ブログ 2015 年 8 月 24 日更新)

文 献

- [1] 黄華堂ブログ
<http://oukado.jugem.jp>
- [2] 黄華堂 Twitter
<https://twitter.com/oukado>
- [3] 黄華堂 Facebook
<https://www.facebook.com/pages/黄華堂/277236582327100>



小林 弘